

もっと・ずっと 社会のために

COOP SAPPORO CSR REPORT 2013

コープさっぽろ
CSRレポート2013



コープさっぽろ経営企画室

札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-6620 / FAX.011-671-5752
<http://www.coop-sapporo.or.jp/>



コープさっぽろの「マイナスCO₂オペレーション[二酸化炭素削減活動]」
CO₂削減への取組を通して、環境に関する理解を深めエコ活動を推奨、
エコロジー(環境保全)とエコノミー(経済活動)の両立の実現を目指しています。



編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

●報告対象期間
2012年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2013年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2013年3月20日現在のものです。

●ホームページでの情報公開について
コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2012年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。(当該情報に関するホームページの公開は、2013年6月を予定しています)

CSRレポート掲載URL
[http:// www.coop-sapporo.or.jp](http://www.coop-sapporo.or.jp)

●発行年月および次回発行予定
2013年5月発行。
次回は2014年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先
生活協同組合コープさっぽろ経営企画室
〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-6620 FAX. 011-671-5752

CONTENTS

ごあいさつ.....01
豊かで安心な暮らしを組合員と一緒に創造します。
【コープさっぽろの事業と活動】.....02

2012年度CSR活動報告

食 Special Story
北海道の食を守る.....04
●食や料理を発信し、豊かな食卓づくりを応援します。...06
●安全・安心にこだわった食品を届けています。.....08
●組合員の産地交流を進め、「食べるたいせつ」を伝えています。.....10

環境 Special Story
脱原発と新エネルギーの実現へ.....12
●エコな技術・行動により、事業の環境負荷を減らします。...14

地域貢献 Special Story
安心してらせる地域をつくる.....16

子育て応援 ●子どもの豊かな心を育てる子育てを応援します。.....18

組合員活動 ●助け合いの心を持ち、強い絆をつくります。.....20
●健康で文化的な暮らしに役立つ活動を行っています。...22

事業 ●地域の資源を生かし、北海道を元気にする事業を行います。.....24

ECO PROJECT 2013 コープさっぽろ2012年度環境報告.....26

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろの基本姿勢・環境理念と環境方針.....29
基本情報.....30
組合員動態.....31
事業所数と形態.....32
沿革.....33

MESSAGE

ごあいさつ



コープさっぽろ理事長
大見 英明

’12年度は、東日本大震災からの復興支援と同時に甚大な被害を発生させた福島原発事故を通して日本の農業、食、そしてエネルギーの分野で大きな転換点となった1年ということができます。そして従来の枠組みを見直しする契機となり、将来に向けた持続可能な社会・経済をどう追求していくのかが問われました。コープさっぽろは、その実現に向けて『北海道で事業を通して循環型の経済を推進する』そして『エネルギーと自給率を高める』という2つのことを目標にして活動を推進してきました。

環境とエネルギーの分野では、自ら再生エネルギーを創出するために、函館地区の七飯町にバイオガスプラントを完成させると同時に太陽光によるメガソーラー発電所を帯広地区の2カ所に建設することができました。

また’12年度の象徴的な出来事としては、コープさっぽろ独自の飼料米を有効活用した「黄金そだち」シリーズの商品群の開発の努力が認められ、農林水産省が積極的に推進する「フードアクション・ニッポン アワード2012」にて、大賞を受賞するという名誉にあずかりました。引き続き北海道にこだわり、農業生産から付加価値のある食品の生産と普及を推進していくことが求められてきています。

北海道内の生産者を支援しようと創設されたコープさっぽろ農業賞ですが、受賞生産者の農園を舞台にして新しい価値を生み出す「畑でレストラン」の取組も大変好評でした。北海道の豊かな自然と料理を楽しむ新しいグリーンツーリズムの企画となりました。この取組には、新しく多くのシェフの皆さんの協力をいただきながら北海道の料理をおいしくする事業として注目を集めることができました。さらに今までのコープさっぽろの広報誌「Cho-co-tte(ちょこっと)」を刷新し、北海道の素材を生かす料理レシピを中心に新しく発信することで、60万部が配布され組合員さんからも好評をいただいています。

そのほかにも高齢者や過疎地での買い物困難地域での移動販売車の取組や、食事を作ることができない生活困難者への「配食サービス」の事業が大きく伸展しました。移動販売車は「おまかせ便カケル」と命名され全道92市町村へ52台が稼働するなど広域化することができまし、配食サービスの事業は、札幌以外にも帯広、函館、苫小牧、旭川地区と活動範囲を広げ15,000名の利用登録をいただくまでになりました。また安全で安心な食を届ける活動だけではなく、アレルギー対応の食事の提供が評価され「幼稚園給食」の分野が拡大しました。さらには新しく「産後食」のスタートをさせることができました。

こうした直接、組合員さんのご自宅に食事を届ける事業を通して、高齢者の安否確認の活動も推進し、各自治体との「高齢者の見守り協定」も53市町村と締結するにまでなっています。

コープさっぽろは北海道に貢献することが最大の使命です。本レポートは、1年間のさまざまな活動をまとめ、紹介するものです。多くの方々にご覧いただき、コープさっぽろに対して忌憚のないご意見、ご助言を引き続きいただければ幸いです。

豊かで安心な暮らしを 組合員と一緒に創造します。

コープさっぽろの事業と活動

生活協同組合とは、より豊かな暮らしを実現するため、皆が力を寄せ合って、一つの意思の下に活動する組織のこと。コープさっぽろの事業は組合員の暮らしを豊かにするためにあり、活動の主役は組合員です。「組合員の暮らしの安心」を目標として、6つのテーマの下に多彩な事業・活動を行っています。



子育て 応援

(P18~19)
子育て支援基金を設立し、**子どもの成長と子育て家庭を応援**するさまざまなプログラムを実施しています。



- 事業所内保育園「aurinko」(P18)
- えほんがトドック(P19)
- よみかかせキャラバン(P19)
- おしごとキッズ(P19)
- 子育てサポート(宅配トドック)(P19)
- ちびっこコープデー(P19)
- トドックルーム 子育て広場



- 福島の子供も保養プロジェクト(P20)
- ボランティア「きずな」(P21)
- プータン水と衛生プロジェクト(P21)
- コープ共済(P21)



- コープ配食サービス(P07)

- 広報誌「ちょこっと」(P06)
- 天使大学との連携
(天使大学のレシピ)(P06)
- キッチンスタジオ(P07)

食

(P04~11)
食の安全・安心を守り、北海道の持続可能な食料生産に貢献。組合員と生産者の交流を深める活動も進めています。

- フード・アクション・ニッポン アワード
2012大賞受賞(P04)
- 「黄金そだち」シリーズ(P04)
- べっかい乳業興社提携(P05)
- コープさっぽろの
プライベートブランド(P08)
- ちょこっとカフェ(P09)
- MD研究フォーラム(P09)
- こだわり北海道100シリーズ(P09)



- トレーサビリティ
- 6つの自主基準
- 商品開発
- 商品検査室

- 畑でレストラン(P10)
- 産地交流ツアーDoさんぽ(P11)
- コープさっぽろ農業賞(P11)
- 食べる・たいせつフェスティバル(P11)



コープさっぽろ

組合員 活動

(P20~23)
食や暮らしの安全・安心を中心に、組合員の希望や関心に応じて**コミュニティづくり**を促しています。組合員なら誰でも参加できます。



- 文化教室(P22)
- 文化鑑賞会(P22)
- シーズドラッグ
健康セミナー(P23)
- ありがとうの声(P23)
- スポーツイベント主催
- 食育イベント主催

環境

(P12~15)
新エネルギーへの移行を促す取組や啓発活動を進めます。同時に事業活動の**環境負荷低減**に取り組んでいます。

- メガソーラー(P12)
- バイオガスプラント(P13)
- 木質ペレット(P13)
- BDF(P13)
- 原発事故と放射能汚染を考える学習会(P13)



- ECO・OP(P14)
- BEMS導入(P14)
- LED照明導入(P14)
- エコセンター(P15)

- レジ袋削減
- 環境理念と環境方針
- エコプロジェクト21



- コープ未来(あした)の森づくり基金(P15)
- 植樹活動(P15)

地域 貢献

(P16~17)
誰もがぐらしやすい地域づくりを目指しています。特に高齢化社会に伴う**地域の見守り**に力を入れています。

- コープくらしの助け合いの会
- コープくらしの相談室
- コープさっぽろ社会福祉基金
- ワーカーズコープ札幌
- はまなす食品



- 移動販売車
「おまかせ便カケル」(P16)
- 地域見守り協定(P17)
- 地域まるごと元気アッププログラム(P17)
- シニアコープデー
- 赤平お買物バス



- 大雪水資源保全センター(P24)

- 店舗事業(おいしいお店)
- 宅配事業(トドック)
- ギフト
- 灯油宅配

事業

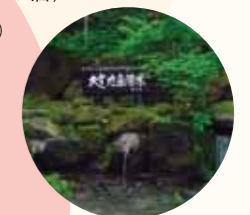
(P24~25)
店舗と宅配を中心に、**どこでも同じ商品・サービス**を届けることを目指しています。**道内企業や自治体と連携**し、北海道のブランド強化にも努めます。



- フリエ葬(P25)



- 動物園協賛(P23)



- JAみねのぶ提携(P25)
- スーパー魚長提携(P25)



Special Story 北海道の食を守る

コープさっぽろは厳しい自主基準やトレーサビリティなど食の安全・安心を高める活動を続けてきました。食の生産地である北海道を元気にする取組として、生産者と組合員、または農漁業の生産者と製造工場を結びつけ、新たな絆を生み出しています。

フード・アクション・ニッポン アワード 2012で大賞を受賞

'12年11月2日、「フード・アクション・ニッポン アワード2012」の表彰式が、東京・有楽町で行われました。「フード・アクション・ニッポン」は、世界で食料問題が深刻化する中、日本の食料自給率向上を目指して農林水産省によって立ち上げられました。国産農産物の消費拡大などの活動を多くの人に知ってもらおうと、優れた取組を「フード・アクション・ニッポン アワード」で



▲フード・アクション・ニッポン アワード2012の表彰式

表彰しています。食料自給率向上に寄与するだけでなく、農業や地域の活性化、環境問題の解決などにもつながる、継続性ある取組が求められています。

'12年度の同賞には、全国の食品メーカーや農業生産者などの個人や団体から、商品や流通、販売促進など各部門で総計862件の取組が応募されました。その中で栄えある大賞を受賞したのは、コープさっぽろの「黄金そだち」シリーズのプロジェクでした。



コープさっぽろの
黄金そだちシリーズ
kogane sodachi®

休耕地を活用して作ったお米を 北海道の酪農・畜産に活用

「黄金そだち」とは、北海道の休耕地を活用して飼料用米を生産し、そのお米を飼料として育てた牛、豚、鶏や、それらの家畜がもたらす畜産物に付けたブランド名です。酪農や畜産農家の多い北海道で、飼料の一部を現在の外国産輸入穀物から道産飼料用米にシフトし、食料自給率向上に貢献するとともに、安全・安心な食品を作りたい…そういう思いからプロジェクトは'10年にスタートしました。

プロジェクトの成功の鍵は、飼料用米の生産者、商品の生産を行う酪農・畜産の生産者をつなぐネットワークを作ることです。そこで商品の販売を行うコープさっぽろが中心となり、「コープさっぽろ新規需要米協議会」を設置し、需要と供給の流れをスムーズにしました。初年度は10農協で飼料用米を生産し785トンの取扱量でしたが、'12年度には14農協を含む17生産者に拡大し、取扱量も1,598トンへと倍増しています。これは、道内で生産される飼料用米の約3割に相当する生産量になります。

商品は、ブランド立ち上げ時は「黄金そだちのたまご」1アイテムから始まりました。以降、協力生産者は8人に増え、「黄金そだちの別海牛乳」「黄金そだちの美瑛豚」など商品ラインナップは着々と拡大しています。'12年には「黄金そだちの知床鶏」と「黄金そだちの別海アイス」が新たに開発され、全17アイテムになりました。



黄金そだちの知床鶏 (写真左) 売上金額100,930,147円
黄金そだちの別海アイス (写真右) 売上金額 10,441,364円

■黄金そだちシリーズ2012販売実績 ('12年4月~'13年3月)

シリーズ総計	店舗	459,885,958円 (前年比152.2%)
	宅配	313,732,810円 (前年比138.9%)
	合計	773,618,768円 (前年比146.5%)

商品数が増えれば、売場展開は広がり、消費者への知名度もアップします。売上は前年比約140%の伸びを見せており、徐々に組合員にブランドが定着しつつあります。ブランド商品への人気や評価が高まれば、生産者の協力も拡大し、飼料用米の作付面積拡大・休耕地の再利用促進へつながります。取組の将来性への期待が、受賞から感じられます。

農業・食品加工の生産者とともに 食の生産地・北海道を盛り上げる

「黄金そだち」が、コープさっぽろが目指す安全な食づくりに向けて、新たな協力関係に結びついています。'12年4月5日、「黄金そだちの別海牛乳」を中心に乳製品の供給を受けている別海町のべつかい乳業興社と事業連携協定を締結・調印しました。コープさっぽろは、町から同興社の株式3%の譲渡を受けて資本参加し、商品の価値を高めるお手伝いや組合員への利用啓発を行います。また、同興社からは牛乳の供給を拡大してもらうとともに「黄金そだち」シリーズの乳製品開発を進めるといった相互連携を深めています。

以前よりコープさっぽろは、北海道の原料を使用し、北海道の工場で製造した「こだわり北海道100」シリーズ (P09) を販売しています。さらに'12年からは、同様に北海道内の地産地消への貢献を目指しプライベートブランド (PB) 商品 (P08) の販売も開始しています。安全・安心な品質は今まで通りに、さらに北海道の産業を活発にし、消費者の目線から応援したくなるものづくりを、コープさっぽろは北海道の皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。



▲べつかい乳業興社の生産風景



食や料理を発信し、豊かな食卓づくりを応援します。

北海道の豊かな食材をおいしく味わう方法をさまざまな人と共に考えるほか、子育て世帯や高齢者世帯などの食卓を支える配食サービスを行っています。

広報誌「ちょこっと」を刷新し 新たな北海道の食文化を創造します

コープさっぽろは、組合員向けに食や暮らしの情報とコープさっぽろの取組を発信する広報誌「Cho-co-tto(ちょこっと)」を発行しています。これまでよりもさらに「食」をクローズアップし、北海道の優れた食材の食べ方や料理の方法を紹介することで、北海道独自の食文化の形成に貢献したいという思いから、'12年4月にリニューアルしました。

新「ちょこっと」は毎号、旬の食材や食品をひとつテーマに据え、北海道の生産地を訪ね、生産者の思いやその製品の素晴らしさを特集します。さらにテーマとした食材は、有名シェフによるレシピや、取扱いなどの豆知識を掲載することで掘り下げて紹介しています。判型は台所で広げやすいA5サイズに変更し、24ページから76ページに増やしました。

また、そのほかにもレギュラー企画として、さまざまな料理研究家のレシピ紹介や道内各地のファームレストランやワイナリーの情報など、食に関する情報を多く掲載。環境や子育て、給食、健康をキーワードにコンテンツを充実させました。今後は、コープさっぽろが展開するイベントともコラボレーションし、さらに食文化としての発信力を強めていきます。



ちょこっと編集長 平島美紀江

'10年度「びあっと」を「ちょこっと」に変更し、食育、子育て支援をメインに編集してきました。'12年度さらに食に特化して大幅にリニューアルし、「北海道のおいしい食卓を提案」することをコンセプトに実部数で57万部発行しています。今後も北海道の食をコープさっぽろがプロモーションしつつ、組合員さんに満足していただけの誌面作りを目指します。



▲「シェフレシピ」の掲載例。盛り付けにもこだわり、特別な食卓を提案しています

天使大学の学生が考案した 「天使大学のレシピ」

コープさっぽろは'09年から天使大学と連携し、「より安全・安心な食」を目指した料理レシピの共同開発を進めています。広報誌「ちょこっと」でも『天使大学に聞いてみよう!』コーナーとして、体調の悩みに合わせたメニューの提案をしています。



▲共同開発したメニュー例

子どもの給食や産後のママ向けに 「コープ配食サービス」が拡大

日々の食事を作ることが難しい高齢者世帯に向けて、コープさっぽろは'10年から「コープ配食サービス」を開始しました。'12年には5月21日に苫小牧、10月22日に旭川で新専用工場が稼働開始し、配食エリアが拡大しました。この事業は地域の高齢者の見守りにも役立っています(P17)。

エリアだけでなく、対象も高齢者以外に拡大し、メニュー開発を進めました。'12年4月18日からは、子どもたちに安全・安心で栄養バランスの良い食事を提供するために幼稚園給食サービスを始めました。

また、全国初の取組として、産後の女性に向けた『産後のからだに優しいごはん』サービスを'13年3月4日から開始。



▲▲ 苫小牧工場



社団法人北海道助産師会、NPO法人のこたべと協力し、助産師と子どもごはん研究家(栄養士)がレシピを考案しました。産後ケアや母乳育児に必要な栄養素を補給できる食事メニューをお届けしています。



▶ 幼稚園給食の一例



▲『産後のからだに優しいごはん』メニュー例

成果を見る

コープ配食サービス('12年度)

登録者数約5,000名(年間延べ利用人数1,224,000名)

拡大エリア 18市町

主婦や親子に料理のレッスンを 「キッチンスタジオ」オープン

さまざまな食育の取組を進める中で、コープさっぽろは若い方々には料理を習得する機会がなかなかないということに気がきました。そこで、'12年7月24日、札幌市のソシア店内に「キッチンスタジオ」を設け、「コープクッキングスクール」を開設しました。人気シェフによるプロレッスン、子ども向けの食育レッスン、メーカー協賛による料理教室、シニアレッスン、季節催事レッスンなど多彩なレッスンを用意しました。スクールライセンス取得クラスもスタートし、徐々に利用者が増えています。10月1日にはベルデ店(帯広市)にもオープンし、今後いしかわ店にも開設予定です。



成果を見る

コープクッキングスクール利用者数

815名('12年7月~'13年2月)

安全・安心にこだわった食品を届けています。

食の安全はコープさっぽろが創立当初から取り組むメインテーマの一つです。信頼した生産者や工場がつくれたものだけをお届けしています。

産地も特徴も一目でわかる プライベートブランド商品発売

コープさっぽろは1998年に独自開発の商品をいったんやめ、日本生協連のコープ商品に販売を一本化してきました。しかし、より良質なものを低価格でお届けしたい、さらにできるだけ北海道内で生産することで地産地消に貢献したいという思いから、新たにプライベートブランド(PB)商品の開発に取りかかりました。

今回の商品開発で、もっとも力を入れた点がデザインです。これまでは製造部門ごとにデザインが異なっていたが、一目で「コープさっぽろらしさ」が伝わる、統一されたデザインを目指しました。コンセプトは「シンプル」と「良質」。商品名(商品コピー)においしさ、こだわりや産地など商品のアピールポイントを表現し、パッケージを一目見れば商品の特徴がつかめるようにしました。デザイン・商品コピーともに、日本の第一人者の方に委託をしています。

製造は可能な限り北海道内の工場で行っています。'12

年10月1日に「コープのティッシュ」「コープのトイレトロール」で販売を開始し、以後「有明産焼きのり」「大雪旭岳大自然がろ過した天然水」など食品類を次々と開発しました。今後'15年までの3年間で、200商品を目指して開発を続けます。

デザイン担当 廣村デザイン事務所

良品計画や紀ノ国屋のPBデザインなどに関わり、グッドデザイン賞の審査も行っています。

商品コピー担当 松木圭三氏

日経広告賞、朝日広告賞、広告電通賞、日本雑誌広告賞、ACC賞、新聞協会賞など受賞歴多数のコピーライターです。

成果を見る コープさっぽろのプライベートブランド 販売実績

飲料3品	食品19品	日用品5品	合計27品
累計230,000,000円('12年10月~'13年3月)			

オリジナルのスイーツ 「ちょこっとカフェ」を開発

組合員の皆さんに、ちょっとだけ、ぜいたくな時間をお届けしたい。そんな思いから開発されたのが、コープさっぽろのオリジナルのスイーツ「Cho-co-tto Cafe(ちょこっとカフェ)」シリーズです。コンビニエンスストアのオリジナルデザート市場が拡大している中で、コープさっぽろらしいオリジナル商品をお届けしようと開発に取りかかりました。家族で楽しんでいただくことを考えて、コンビニスイーツよりもすこし大きめのサイズにしています。

'12年8月22日に全19品を発売しました。今後も季節に合わせたスイーツの開発を進めていく予定です。



成果を見る
ちょこっとカフェシリーズ販売実績
173,512,000円('12年8月~'13年2月)

危機の時も食をお届けしていくために 「MD研究フォーラム」で学び合いました

製造・流通・小売業が連携し、売り場づくりを共同研究する「MD研究フォーラム」を毎年開催しています。'12年度は、テーマを「震災復興とMDの変化について」とし、東日本大震災による生活・支出のあり方の変化の分析と危機管理への対応、震災後の流通業の課題について意見を交換しました。パネルディスカッションには大見英明コープさっぽろ理事長が参加し、コープさっぽろの支援活動から得た経験、流通業が大規模災害時の物資供給に向けてすべき備えなどについて意見を述べました。



講演や発表の様子を記録しDVDにしています

開催日/'12年6月29日 場所/札幌パークホテル
参加者数/約700名

Topics [事業活動トピックス]

「こだわり北海道100」

北海道で採れた原料を北海道内の工場加工した安全・安心な食品のシリーズが「こだわり北海道100」です。北海道には優れた農産物・海産物があることを組合員に伝えるとともに、道外へ販路を拡大することで、良質なものをづくりを行う製造工場の経営支援となり、地元の雇用も確保する狙いのもと、'08年にシリーズは誕生しました。

その後同シリーズは順調にラインナップを増やし、その数は144品目に及んでいます。

こだわり北海道100シリーズの販売実績

490,651,000円('12年4月~'13年1月)
累計2,599,019,000円



コープさっぽろ PB商品



組合員の産地交流を進め、「食べるたいせつ」を伝えています。

組合員が産地を訪れ、生産者や生産風景にふれる機会をつくるほか、子どもの食育に役立つ、食に関わるイベントを行っています。

今年は海の産地交流ともコラボ「畑でレストラン」が拡大中

「畑でレストラン」は、「コープさっぽろ農業賞」の受賞生産者の畑で、地産地消にこだわる名店のシェフが、とれたての安全・安心な食材を使ったランチを提供するイベントです。参加者は生産現場を見学し、ランチを楽しみながら生産者やシェフから食材や料理に関するトークを聞くことができます。開催地は農場だけでなく、「磯辺でレストラン」として漁業生産者とも交流を行っています。

'12年度は、7月21日・22日に、スローフード・フレンズ北海道がせたな町で開催するイベント『海フィール』とコラボ開催をしました。農業賞受賞生産者の秀明ナチュラルファーム・村上牧場が参加する『せたな山の会』に畑でレストラン開催をお願いしたところ、山の会が後援する海フィールとのコラボが決まったものです。料理はせたなの縁が深い、札幌のイタリアンレストラン「Sagra」の村井シェフに依頼し、海を見下ろす芝生でせたな食材を使ったランチを楽しみました。



▲畑の真ん中にキッチンカーを入れてレストランを作ります

成果を見る

畑でレストラン（'12年度）

海フィール&畑でレストラン 参加者数36名
畑でレストラン 全18回（うち磯辺でレストラン4回）
合計542名参加

サツエキ前で「畑でレストラン」



▲JR札幌駅南口広場に登場した「畑でレストランスペシャル」

'12年9月14日～23日の期間に札幌駅前で開催された『サツエキグルメLIVE』に「コープさっぽろ農業賞フェスティバル 畑でレストラン」として参加しました。シェフによるランチ・ディナーを提供するほか、農業賞受賞生産者の商品を販売する「ファーマーズマーケット」を同時開催しました。



▲シェフによる料理教室イベントも開催

◀農業賞受賞生産者による「ファーマーズマーケット」

食育企画から大人の社会見学まで産地交流ツアー「Doさんぽ」

コープトラベルでは、北海道内の農業生産地や食品工場などを訪れ、生産者と消費者が交流するツアー企画「Doさんぽ」を開催しています。田植えや山菜採りなどの食育に役立つ企画から、さまざまな工場見学など大人が楽しめる企画まで、さまざまな企画を行っています。

参加者の声

- 北海道の生産者さんと知り合えて、北海道のファンになりました
- お店や宅配で生産者さんの商品を見つけると、必ずかごに入れていきます

成果を見る

Doさんぽ（'12年度）

ツアー件数 27件
参加人数 1,640名（大人1,138名、子ども502名）

「農業賞のつどい」で受賞生産者との交流を続けています

安全・安心な食を提供する生産者、消費者交流に努める生産者を、消費者の立場から表彰・応援する「コープさっぽろ農業賞」は、'04年から始まり、'11年の第8回開催をいったんの区切りとしました。'12年度は12月7日に「農業賞のつどい」を開催し、過去に受賞した生産者や審査委員、組合員を招き交流を深めました。参加者は、参加生産者の作った農水産品を使った料理に舌つづみを打ちながら、受賞生産者のその後の取組についての話を聞き、交流を深めました。

以降3年に1度、農業賞受賞を行う予定で、次回は'14年度に開催します。



▲農業賞のつどいの様子

成果を見る

農業賞のつどい（'12年度）

参加人数 198名
（生産者60団体101名、組合員21名ほか）

親子で楽しみながら食を学ぶ「食べる・たいせつフェスティバル」

マルシェをイメージした会場で親子が楽しみながら、地域のおいしい食と「食べることのたいせつさ」を発見できる大型食育イベント「食べる・たいせつフェスティバル2012」を、今年度も全道7会場で開催しました。



成果を見る

食べる・たいせつフェスティバル（'12年度）

開催日	開催地区	来場者数	出展者数
9月23日	苫小牧	1,481名	40名
10月6日	帯広	2,416名	53名
10月14日	函館	1,568名	35名
10月21日	北見	1,470名	35名
10月27日	釧路	2,220名	34名
11月3日	札幌	6,190名	98名
11月11日	旭川	3,580名	40名
合計		18,925名	335名



Special Story

脱原発と新エネルギーの実現へ

事業による環境への負担をできるだけ減らすこと、エネルギー問題など私たちが直面する課題にさまざまな取組でコープさっぽろとしての意思を示すことで環境への関心を広げ、環境保全型の社会の実現を目指しています。

自然エネルギーへの転換を目指し「メガソーラー」事業を開始

コープさっぽろは環境方針の中で、「太陽光など自然エネルギーを使った発電の事業を、組合員の協力を得ながら開始します」と明確に示してきました。東日本大震災を経験し、節電、原発再稼働の論争とエネルギー問題への関心が高まる中、一刻も早い取組の開始が求められていると感じました。

’12年7月1日に再生可能エネルギーの全量買取制度が開始され、発電した電力は電力会社に全量、固定価格で買取されることになりました。初年度は買取価格が高めに設定され、年々単価を引き下げる方針ということで、’12年は事業を始めるのに最も適したタイミングです。そこで大規模ソーラー発電所（メガソーラー）の建設を決めました。

建設場所は、年間日射量が道内で最も高い値を示す帯広地区としました。土地の広さや障害物の有無、架台を支える土

地の強度、有害物発生リスク、送電線の位置などを検討し、帯広市の2カ所を選定しました。

建設にあたり、費用の約半分を「メガソーラー債」として組合員の皆さんから出資していただきました。完成した施設の名称は「市民ソーラー」とし、市民の皆さんの力で発電を行っていることを表しました。’13年3月21日に竣工式を行い、現在は発電を開始しています。



▲メガソーラー

コープ・市民ソーラーとかち南町発電所

【太陽電池容量】約1.2MW（モジュール枚数5,042枚）
【予測発電量】年間135万kWh

コープ・市民ソーラーとかち川西発電所

【太陽電池容量】約0.75MW（モジュール枚数3,138枚）
【予測発電量】年間82.4万kWh



バイオガス、木質ペレットなど電力以外も再生可能エネルギーに

再生可能エネルギーは太陽光だけではありません。化石燃料やウランなどの地下資源に頼らない、自然の力で利用する量以上の速度で補充されるエネルギーのことです。また、事業所や一般家庭では、電力だけでなくさまざまなエネルギーを使用します。それら一つ一つを環境への負荷が少ないエネルギーに変えることを目指しています。

コープさっぽろでは、かねてから新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と協力し、バイオガスプラントの建設を進めていました。そのプラントが’12年12月4日に完成し、10日から函館市内のコープさっぽろの店舗9店と、提携するスーパー魚長（P25）合計25店舗から出る食品残渣と、近隣の酪農家から回収するふん尿を混ぜて投入し、メタン濃度が96%以上になるように精製して実験稼働を行っています。生産したバイオガスは、将来的には地域の店舗でも利用する予定です（P14）。

また、店舗でできる取組として、ルーシー店に木質ペレットを利用するボイラーを導入し、北海道産木質ペレットを使って稼働させています。その熱は年間を通じて施設内の温水プールに使用するほか、冬の暖房にも活用しています。



◀機械で生ごみを粉碎し、ふん尿と混ぜ発酵させてガスを発生させます

▶バイオガスプラントの機械室

また、エネルギーのリサイクルとして、てんぷら油（廃食油）を利用したBDF（バイオディーゼル燃料）の使用にも’08年度から取り組んでいます。全道走るドックトラックには、BDF車が300台導入されています。さらに組合員の家庭からてんぷら油（廃食油）をエコセンターで回収し（P15）、生成工場に運んでBDFを製造しています。このBDFはバイオガスプラントの発電機にも利用されています。



▶BDFを利用して走るドックトラック

皆でエネルギー問題を考え未来を決めていく社会へ

エネルギーを使う一人一人が安全・安心なエネルギーを選ぶ意思を持たなければ変革は起こせません。組合員に原発事故の教訓と、これからのエネルギーを考える正しい情報を提供するため、「原発事故と放射能汚染を考える学習会」として専門家の講演会を行っています。組合員の皆さんと共にエネルギーの未来を考え、安全・安心なエネルギーの提供に力を尽くしていきたいと思っています。



▲「子どもへの放射能被害を考える～泊原発と幌延問題～」

原発事故と放射能汚染を考える学習会

地区	開催日	テーマ・講演者	参加人数
札幌	5月9日	「内部被ばくと健康被害」北海道がんセンター院長 西尾正道氏	114名
札幌	6月28日	「巨大地震と泊原発」泊原発の廃炉をめざす会代表・北星学園大学教授 小野有五氏	149名
釧路	7月6日	「内部被ばくと健康被害」北海道がんセンター院長 西尾正道氏	130名
札幌	8月23日	「東日本大震災の瓦礫処理と放射能」元北海道林業試験場職員 高畑 滋氏	145名
苫小牧	8月24日	「苫小牧市瓦礫受入経緯と結果」苫小牧市環境衛生部 山村雅毅氏	20名
札幌	9月27日	「脱原発・環境問題とメガソーラー学習会」(株)エネコープ社長 野坂卓見氏	82名
旭川	2月11日	「子どもへの放射能被害を考える～泊原発と幌延問題～」旭川大学学長 山内亮史氏	70名
函館	2月15日	「環境に優しいエネルギー」地球温暖化防止活動推進委員 石原千鶴氏	65名
北見	2月22日	「原発と放射線被ばくを考える講演会」北見工業大学准教授 早川吉彦氏	69名

エコな技術・行動により、事業の環境負荷を減らします。

店舗の運営に伴うエネルギー消費やCO₂排出をできるだけ減らし、リサイクルや植樹活動を広げて環境保全への意識を高めています。

徹底したエコ木造店舗 「ECO・OP」2店目がオープン

コープさっぽろは'10年より、環境配慮型のエコ店舗「ECO・OP（イコープ）」の展開を進めています。'12年11月16日にECO・OP6店舗目、木造店舗としては2店舗目のいしかわ店がオープンしました。

いしかわ店には、ECO・OP木造店舗第1号店である西宮の沢店運営のデータを生かし、効果が高かった機能を中心に取り入れました。壁面に設置したソーラーパネル（ソーラーウォール）での発電、ガスコージェネレーションシステム、扉付きの冷凍ケース、冷機での二酸化炭素冷媒などです。店内の木製什器にはカラマツの間伐材を使用し、ぬくもりのある雰囲気を



▲ECO・OPいしかわ店

演出しています。

商品も環境配慮型の製品を多く取り入れるほか、函館市や近隣2市5町の生産者110人の農産物や加工品を販売する「ご近所やさい」コーナーを設け、人気を博しています。

さらに利用開始はまだ先になりますが、新たな試みとして、七飯町のバイオガスプラント（P13）のガスを熱源として利用できるよう設備しました。よりエコな事業活動ができる店舗を目指し、ECO・OPは進化を続けます。



▲人気の「ご近所やさい」コーナー



▲ノントレー商品など商品の売り方も環境に配慮

BEMSとLED照明の導入で 既存店舗も環境負荷を低減

東日本大震災以降、全国的に節電が求められる中、コープさっぽろは省電力の取組を一層進めています。従来から進めていた電力消費量の「見える化」に、さらに電力消費量のコントロールを細かく行うことを目的にBEMS（エネルギー管理システム）を導入しました。消費電力の自動制御につながる機能として期待されており、現在は12店舗に設置し、先行して設置した岩見沢東店で実用のための実験を継続しています。

また、LED照明はECO・OP



▶BEMSの装置。電力消費量を監視します

西宮の沢店の結果から節電効果があると判断し、全店導入を決めました。LED化は一部冷蔵ケースではオーバーキャノピーにすることで本数も削減し、その他生鮮ケース照明、スポット照明のLED化をこの冬に完了させました。

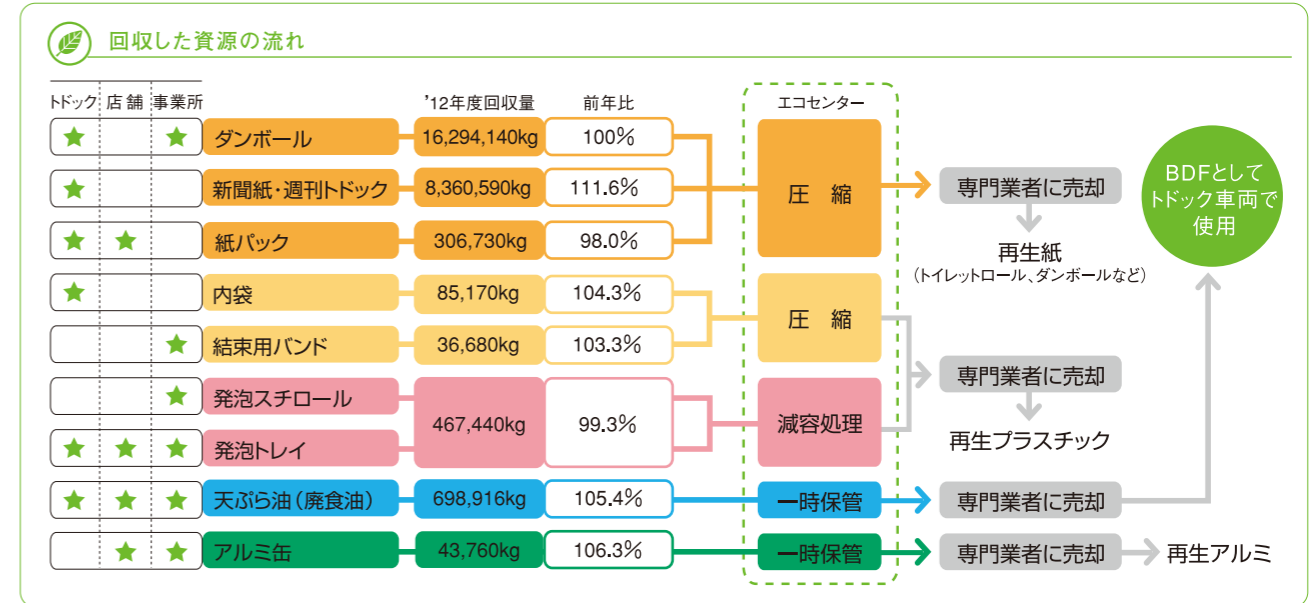


▲▶店内スポット照明（写真上）生鮮ケース（同右）のLED照明

事業活動の廃棄物を資源へ 「エコセンター」によるリサイクル

店舗や組合員の家庭から出る廃棄物の中には、リサイクルできる資源物もあります。コープさっぽろは'08年より資源物を「エコセンター」でリサイクルしやすい形に処理しています。資

源は、配送を終えたトラックの帰り便で、環境負荷をかけずに回収しています。また、エコセンターでは施設の開放を行い、さまざまな方に循環型の地域社会づくりについて学ぶ機会としていただいています。'12年度は16回、合計210名が施設の見学を行いました。



基金で、協定で、ボランティア活動で 森づくりが全道で進んでいます

「コープ未来（あした）の森づくり基金」は、店舗でレジ袋を辞退すると0.5円が積み立てられ、北海道の森づくりに役立てられる仕組みです。組合員とは「植樹祭」や「森とのふれ合い企画」を行い、森づくり活動を広げる「あすもりサポーター」の増加を目指しています。また、道内の他団体の森づくり活動を、助成金を出して支援しています。



▲第5回コープの森植樹祭（'12年6月9日道民の森）

植樹祭

'12年は新たに喜茂別町との植樹協定を締結し、「コープの森」は全道10カ所になりました。5～6月にかけて全地区で植樹祭を開催し、前年の1.3倍を超える参加がありました。「あすもりサポーター」は前年比約2.4倍の646名の登録がありました。当別町の「道民の森」では、5年かけて一つの植樹エリアにすべて植樹を終え、'13年度からは新たな区画・新たな森づくりを企画しています。



第3回北海道の森づくり交流会

'13年1月26日に全地区9会場で、森づくりに関心のある組合員さんと森づくり団体など173名が参加し「第3回北海道の森づくり交流会」を開催しました。

成果を見る

植樹祭（'12年度）

全道10地区11会場 植樹面積2.28ha 植樹数4,800本
あすもりサポーター登録646名



Special Story

安心してらせる地域をつくる

かつてお年寄りを手伝ったり、子育てを助け合ったりと、支え合っていた地域は、過疎化や核家族化でなくなりつつあります。同じ目的を持った人が集まり、助け合う「協同組合」の力で、組合員・コープさっぽろの職員と自治体や関係団体が協力し、皆が支え合う新たな地域づくりを目指しています。

「おまかせ便カケル」が
全道各地の買物を支えています

北海道の地方では高齢化と人口減少が進み、近くの店舗が閉店し、車などの交通手段がなく遠い店舗には容易に行けない「買物難民」が発生しています。そういった買物難民対策として、コープさっぽろは'10年から移動販売事業「おまかせ便」を開始しました。

各地を訪れる移動販売車にもっと親しみを持ってもらえるよう、シンボルのキャラクターの名前を公募することにしました。店頭やホームページ、新聞広告で募集したところ、道外からも応募がありました。'12年10月4日にキャラクター名と車体の発表会を行いました。選ばれたその名は「カケル」、北海道の各地を駆けめぐり安全・安心をお届けする想いがこめられています。

新たに「おまかせ便カケル」となった移動販売は、'12年度には31店舗を拠点に52台のトラックが運行し、92市町村をカバーするまでに拡大しています。



「おまかせ便カケル」のトラック。生鮮品、冷蔵・冷凍品を含む1,000点以上の商品を積載します

コープの移動販売
おまかせ便カケル



カケルは「おまかせ便」と一緒に北海道を駆け回っている、元気な北海道犬です

災害があっても買物できる！
おまかせ便のカバー力

'12年11月27日、胆振地方で記録的な暴風雪により送電線の鉄塔が倒れ、登別・室蘭で大規模な停電が起きました。この停電のエリア内にあるコープさっぽろの4店舗でも、営業ができなくなりました。一刻も早い再開を目指し、翌28日には店舗前に商品を陳列して営業を再開しました。さらに、東むろらん、のぼりべつ桜木店の店舗前では、「おまかせ便カケル」によって商品販売を実施。東むろらん店の通電時間に生産した商品を、のぼりべつ桜木店に移動して販売もしました。災害時にもいつもと変わらず買物をしていただける点でも、「おまかせ便カケル」の重要性は増えています。



自治体と協定を結び拡大する
高齢者の見守りネットワーク

高齢化による買物難民発生対策として始めた取組に「コープ配食サービス」(P07)があります。配食や「宅配ドック」では、配達担当者が利用者のご自宅までお伺いし、お顔や様子を見ることができます。この関係を、緊急時にSOSが出せない独居や高齢者のみの世帯の安心につなげられないかと考えたのが「高齢者見守り」への取組です。

新聞が郵便受けにたまっている、テレビの音はするのに呼びかけに応じないなど、いつもと違う状況を察知した際に、配達担当者が各所属センターや自治体や警察・消防に連絡をします。担当者がためらいなく安否確認をし、通報後の連携をスムーズにするために、コープさっぽろと各自治体間で「地

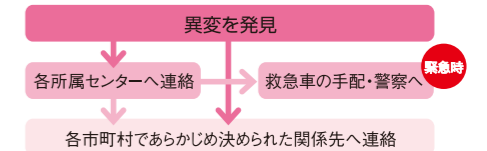
域見守り協定」を締結しています。'13年3月現在で53市町村と協定を結び、連携した事例は81件を数えています。

見守りの輪は広がり、宅配を伴う事業者と見守りのネットワークを築く自治体も現れています。帯広市ではコープさっぽろなど民間事業者と公的機関、民生委員や老人クラブが連携する「きづきネットワーク」が'12年11月8日に発足しました。12月14日には札幌市、民間事業者と共に「札幌市事業者等による見守り事業に関する協定」を締結しました。



▲札幌市(写真左)、恵庭市(写真右)との協定調印式

見守りの体制



見守り対象世帯数('13年3月現在)

宅配ドック 約293,000世帯 配食サービス 約5,000世帯
※共に利用世帯(人数)で置換え

皆がいつまでも元気に
安心してらせる地域へ

コープさっぽろの地域づくりの取組では、産官学(コープさっぽろ、赤平市・余市町、小樽商科大学・北翔大学)の連携による「地域まるごと元気アッププログラム」を行っています。高齢化が進む地域で体力測定会や運動教室、健康に関する講演会を実施し、健康づくりから地域活性化を図ります。

さらに、いきいきとした地域づくりを実現するため、'13年2月7日に北海道と包括連携協定に調印しました。地域づくりだけでなく、「食」「環境」「子育て」など、コープさっぽろが重要視するテーマの下、連携・共同して事業を進めていきます。

子どもの豊かな心を育てる 子育てを応援します。

子どもが健やかに成長するため、子育て中のお母さんの不安を解消するため、必要な支援を子育て応援プログラムとして実施しています。

自然、社会と共生する力を育てる 事業所内保育園「aurinko(アウリンコ)」

結婚・出産後も仕事を続ける女性は増えていますが、そのために必要な保育園が足りず、待機児童の増加が社会問題となっています。職員の1割を女性が占めるコープさっぽろは、従業員が働きやすい職場をつくるために事業所内保育園の設置を考えていましたが、待機児童問題の解決に貢献できればと、地域の方々にも開放することにしました。そして、'12年6月26日、元町店2階に第1号の事業所内保育園「aurinko(アウリンコ)」がオープンしました。

「aurinko」はフィンランド語で「太陽」を意味します。世界一の教育モデルといわれる北欧・フィンランド型教育プログラムを導入し、子どもたちの自由な発想や自発性を育てることを重視しています。園内では創造性を発揮できる木の遊具や絵本、食育ワークショップなどによって、考える力や生み出す力を養います。また自然体験を重視し、山・川・海・自然農法の田畑や牧場などへ繰り出すことで、自然や友達・社会と共生する力を身につけます。

利用する方の感想も高評価であり、札幌圏での託児所の必要性を強く感じます。今後も可能な範囲で保育園の園数を増やし、地域の皆さんにもご利用いただきたいと考えています。

認可外でも「コープの保育園」というきちんとしたイメージで安心できます

利用者の声

木のおもちゃがかわいらしく、明るくきれいで和みます

ほかと比較して利用料金が安いし、やっと見つけました

少人数でゆったりとした雰囲気は他の園とは違います。保育士さんたちの笑顔がいい



▲テーブルや椅子、おもちゃはすべてぬくもりのある木製。家具は東川町の職人によるものです



▲毎日外遊びを取り入れ、子どもの五感を育みます



◀月、水～金曜日はコープ配食サービス(P07)の給食が選べます



▲定期的に保育士の研修を行い、保育の質を高めています

子どもたちに絵本の楽しさを届ける 「えほんがトドック よみきかせキャラバン」

コープさっぽろでは、'10年から小さなお子さまがいる子育て世帯に推薦絵本を無償でお届けする「えほんがトドック」を開始しました。さらに'12年6月14日からは、保育園や幼稚園で絵本の読み聞かせを行い、子どもたちに絵本の楽しさを知ってもらう「よみきかせキャラバン」を実施。札幌市とは「さっぽろまちづくりパートナー協定」の取組の一つと位置付けています。釧路市、旭川市と活動は広がり、今後も行政・地区委員会や「子育てひろば」のスタッフと連携しながら開催を続けます。



▲よみきかせキャラバン

仕事体験「おしごとキッズ」で 子どもたちの将来の夢を広げています

子どもたちがコープさっぽろの店舗で仕事を体験する「おしごとキッズ」を年2回開催しています。'12年度は農産物の収穫・出荷体験や、添加物ジュースづくりなどの子ども学習会を加え、流通の流れや食べることへの知識が広がるプログラムを提供しました。参加したお子さんの保護者からは「食べ物への関心が高まり、自分で料理を作る自主性が生まれた」「あいさつの大切さを知ってくれた」と喜びの声が集まりました。



▲店舗で商品陳列を体験

成果を見る おしごとキッズ('12年度)

開催店舗	夏・冬各11店舗
参加者数	合計419名

成果を見る えほんがトドック('12年度)

申込者	6,177世帯
配本世帯数	13,139世帯
よみきかせキャラバン	20回開催(札幌・釧路・旭川)

谷川俊太郎さんの朗読会を行いました

絵本作家の講演会第1弾として、詩人の谷川俊太郎さんを招き朗読会を行いました。小学生15名の群読や会場と谷川さんの掛け合い朗読、文化教室(P22)で詩から連想して描いた絵に谷川さんのコメントをいただくなど、楽しい企画盛りだくさんの90分でした。



映画「じんじん」を応援しています

「絵本の里」として知られる剣淵町を舞台に、絵本を真ん中に家族の絆とふれあいを描く映画『じんじん』が、'13年7月(札幌・旭川は5月18日先行)公開予定です。子育て支援として「えほんがトドック」を実施しているコープさっぽろの思いが『じんじん』との出会いにつながりました。



©2013映画「じんじん」製作委員会

さまざまな取組・サービスで 子育て世帯の暮らしをサポート

子育て中には、家計の負担は少しでも減らしたいものです。コープさっぽろでは子育て世帯の家計をサポートする取組として、店舗では毎週火曜日、会計から5%割引する「ちびっこコープデー」、宅配トドックではシステム手数料を割引する「子育てサポート」制度を設けています。また、育児中のお母さんの仕事復帰を応援する取組も始めました。札幌市男女共同参画センターなどが主催する「主婦のための3日間お仕事体験セミナー」にインターン先として協力し、7名を受け入れました。

▶「主婦のための3日間お仕事体験セミナー」の様子

成果を見る 子育て応援 お買物をサポート('12年度)

宅配トドック子育てサポート登録者	35,000人
ちびっこコープデー登録者	累計5万世帯7万人



助け合いの心を持ち、強い絆をつくります。

コープさっぽろは組合員に支えられた組織です。皆さんの善意や協力により、社会貢献や環境活動、支え合いなど、くらしを豊かにするさまざまな活動を実施しています。

福島の子どもたちを招いて思い出に残る夏休みを

福島第一原発事故による放射能の影響で、福島の子どもたちは外で十分に遊ぶことができません。子どもたちに、北海道の美しい自然とふれあい、思い出に残るような夏休みを過ごしてもらいたい。その思いからコープさっぽろは、北海道ユニセフ協会、福島県生協連、JA東川の協力を得て、「福島の子ども保養プロジェクト」を立ち上げました。子どもたちを北海道に呼び、キャンプを楽しんでもらう企画で、実施の費用は、組合員



▲記念に植樹も体験しました

▲屋外での流しそうめん



▲天人峡(東川町)など北海道の大自然とふれあいました

の皆さんから『おもいでづくり募金』で善意をお寄せいただきました。

そして'12年7月22日～8月21日の期間に計5回、「北海道に遊びに行こう! 夏休み大自然北海道ツアー」を実施しました。福島県の小学3年生～6年生の子どもたちが、草原や川で思いっきり遊び、流しそうめんやキャンプファイアを楽しみました。コースによっては、提携農家の協力を得て野菜の収穫体験を組み込みました。子どもたちは空気のおいしさに感動し、のびのびとした様子で自然を満喫していました。最終日には札幌で「さよならパーティー」に参加し、充実した表情で福島に戻りました。

成果を見る **おもいでづくり募金**
12,980,104円 ('12年4月20日～5月31日)

成果を見る **ツアー開催実績と参加人数**

北海道に遊びに行こう! イン滝川 (7/22～26)
北海道に遊びに行こう! イン砂川 (7/24～28)
北海道に遊びに行こう! イン東川 (7/30～8/3)
ほんわかイン函館 (7/31～8/5)
北海道に遊びに行こう! イン東川 (8/17～21)
全5回 計130名

避難被災者のくらしを支えた「きずな」のボランティア

北海道へ避難または移住された東日本大震災の被災者のくらしを助けるためにできたのが生活支援ボランティア「きずな」です。札幌を中心に、全道で68名のボランティアが活動しています。

「きずな」では、組合員から季節物の衣料品や文房具・子ども

「ブータン水と衛生プロジェクト」の貢献度を実感し3年延長をします

コープさっぽろは、ブータンの子どもたちに安全な水と衛生的なトイレを使ってもらうため、ユニセフ指定募金「ブータン水と衛生プロジェクト」を'10年度より3年計画で実施しました。集まった募金で'12年6月までに、6校で約1,000名の子どもたちが改善された水道を、4校で約700名の子どもたちが改善されたトイレを利用できるようになりました。同時に、安全な飲み水や正しいトイレの使い方、衛生習慣などに対する教員への研修、また水道や衛生施設の管理人研修も実施しました。プロジェクトは第1期を終え、'13年度からさらに3年計画で延長



◀ブータンの小学校に作られた安全な水道

も用品などを集め、被災者に無料で提供する「バザーde支援」を行っています。'12年6月16日には夏物衣料などのバザーを行い、50名の組合員より約3,000点の品物が提供されました。エコクッキングの紹介なども行い、訪れた80名の被災者の方々に楽しいひとときを過ごしていただきました。

このバザーで「きずな」の活動は終了し、以後は「福島の子ども保養プロジェクト」(左記)で被災者支援を続けています。

することを決めています。

また、'12年4月26日には、ブータン視察の報告とともに、ブータンはどのような国かを知って交流を深めるための「ブータンミニフェスタ」を、全道7会場をつないで開催しました。北海道ブータン協会の皆さんの協力で、ブータンの伝統料理や民族衣装、民芸品などを組合員に紹介しました。

組合員さんが参加する国際協力として書損じハガキ回収活動に取組みました。

回収封筒作成費などを差引き

- ①ブータン水と衛生プロジェクト&代表派遣費
- ②ユニセフネパール指定募金
- ③ブータン小学校支援活動
- ④北海道ユニセフ協会支援の国際協力活動に活用しました。

成果を見る **コープさっぽろの国際協力**

ブータン水と衛生プロジェクト '12年度募金額12,207,358円
書損じハガキ回収活動 換金合計15,341,594円
(寄せられた封筒件数 10,010件)

Topics [組合員活動トピックス]

組合員が支え合うコープ共済

「コープ共済」とは、掛金で組合員同士がくらしを助け合うコープ共済連の制度です。地域の生協が窓口となって、家計の負担にならない掛金を集め、子ども、家、病気などくらしのさまざまな場面の「もしもの時」にかかるお金を保障します。

コープ共済では、保障内容やサービスに組合員の声が反映されています。終身医療保険「ずっとあい」は、組合員からの要望で導入されたものです。より便利で行き届いた共済を実現し、多くの人に助け合いの心を伝えられるよう、コープさっぽろでも共済のご案内を続けています。

累計共済加入者数
456,647名
('13年3月20日現在)

健康で文化的な暮らしに役立つ活動を行っています。

さまざまな文化活動やイベント、啓発活動を通して暮らしを豊かにするコミュニティづくりに取り組んでいます。

学ぶ楽しさを届ける「文化教室」は帯広・函館に新教室を開設

コープ文化教室は、伝統文化の講座から音楽や舞踊など趣味・教養の講座、健康づくりの講座まで、多彩な講座を開講しています。店舗併設の教室が多くお買物がてら通え、子どもを対象とした講座も多く、入会金なし・月単位の受講料と特徴的で便利なカルチャーセンターです。'12年度は帯広地区初となる「ベルデ文化教室」を開設しました。さらに'13年度には函館地区に「いしかわ文化教室」を開設します。

成果を見る コープ文化教室（'12年度）

- 教室…14教室
中央教室、札幌地区（ルーシー、ソシア、平岡、新はっさむ、新道）、石狩地区（いしかり）、岩見沢地区（岩見沢南）、旭川地区（シーナ、東光、神楽）、函館地区（山の手）、北見地区（きたみ春光）、帯広地区（ベルデ）
- 講座数…1,250講座
- 受講生数…7,600名

ベルデ文化教室

'12年10月1日にシーズドラッグ・ベルデ店跡にベルデ文化教室を開設しました。キッチンスタジオ（P7）を備える本格的な文化教室で、託児ルームも併設されています。講座数も豊富で約150講座をそろえています。



いしかわ文化教室

'13年4月には、いしかわ文化教室が開設されました。キッチンスタジオも併設しスタート時の講座数は70講座以上を用意します。



50回を迎えた「文化鑑賞会」では子どもたちの交流も図っています

文化鑑賞会は1,600名の会員による会員制の文化鑑賞団体です。'12年度は50回記念例会として、札幌コンサートホールKitaraで札幌交響楽団の演奏会を開催しました。会員によるお誘いチケットや生協会による招待などを含めて過去最大の入場者数となりました。

'12年12月の公演では小学校の合唱団50名を招待し、ドレスデンの合唱団員との交流も行われまし



▲札幌交響楽団による演奏（C）佐藤雅英

た。ムノツィル・プラスの公演では中学・高校のプラスバンド部員200名を招待しました。

成果を見る 文化鑑賞会（'12年度）

開催日	公演名	会員数
'12年3月	小松亮太&オルケスタ・ティピカ	1,550名
'12年9月	札幌交響楽団	2,660名
'12年12月	ドレスデン聖十字架合唱団&市原愛	1,390名
'13年2月	ムノツィル・プラス	1,630名

北大の専門家が健康について講演「シーズドラッグ健康セミナー」

コープさっぽろは、'11年度から2年間にわたって、北海道大学病院と共同で、地域健康社会研究にかかわる寄付講座を設置しています。この寄付講座の事業として、北大病院の先生による、地域の方々の健康増進を目的としたセミナーを開催しています。'12年度は全9地区10会場で開催し、611名の参加がありました。

成果を見る シーズドラッグ健康セミナー開催状況（'12年度）

地区	開催日	テーマ	参加人数
苫小牧	4月16日	血液検査の話	64名
札幌	4月24日	更年期なんて、なんくるさい!	107名
江別	4月25日	歯科から見た食育	33名
小樽	5月17日	口腔乾燥症	29名
北見	6月5日	サプリメントの効用とデメリット	60名
札幌	6月21日	予防接種の正しい知識	57名
帯広	6月22日	加齢によるひざの痛み	76名
旭川	6月25日	漢方薬は本当に効くのか	65名
釧路	6月29日	薬の副作用・相互作用について	63名
七飯	7月19日	子どものアレルギー	57名

地球環境問題をきっかけに動物園との交流を進めています

絶滅危惧種に指定されているホッキョクグマを応援することで、地球環境への意識を高めようとする「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を'09年から立ち上げています。コープさっぽろは札幌市円山動物園、おびひろ動物園、釧路市動物園と協定を締結し、園内に環境保護をメッセージするサインの設置や、売上の一部を動物園に寄付する取組を続けてきました。



年々動物園との交流が盛んになり、「食べる・たいせつフェスティバル」（P11）への動物園の参加や、動物園のイベントへコープさっぽろが参加しています。

成果を見る 道内動物園への支援（'12年度）

	年間支援金額	支援期間
札幌市円山動物園	300万円 ('09、'10年度は年間500万円)	11年間
おびひろ動物園	200万円	5年間
釧路市動物園	200万円	5年間

! Topics [事業活動トピックス]

国際協同組合年と「ありがとうの声」

'12年は「国際協同組合年」でした。これは協同組合の社会貢献、貧困削減、世界的なネットワーク・コミュニティの構築への役割に期待し、国連が定めたものです。

国際協同組合年は、協同組合について広く皆さんに知っていただくこと、協同組合の設立・発展を促すことを目的としています。コープさっぽろはフィンランド生協連（SOK）とトップ交流を行い、多くの示唆を得たほか、地域の農協・漁協と共同して食育や環境活動を進めました。北海道医療生協とも提携して「健康セミナー」を開催しています。

またコープさっぽろは、たくさんの人に今よりもっと好きになってもらえるコープさっぽろを目指す活動を始めました。その一つが「ありがとうの声」です。組合員の皆さんから、コープさっぽろの好きなところ、職員の良いところをお寄せいただき、さらに強い絆を結んでいます。

ありがとうの声は、ホームページ上で公開しています。
<http://www.coop-sapporo.or.jp/contents/view/id/225>



地域の資源を生かし、北海道を元気にする事業を行います。

コープさっぽろの事業は北海道に根付いたものであり、道内の製造業や流通業などの企業と支え合い、ともに発展して豊かな北海道をつくることを目指しています。

天然水を東川町と共に守る「大雪水資源保全センター」を設立

東川町の「大雪旭岳源水」は、大雪旭岳に雪解け水がしみ込み、長い年月をかけてろ過された湧水です。毎分4,600ℓと湧水量が多く、ミネラル分が豊富で、環境省により平成の名水百選に選定されています。

名水は豊かな環境が生み出すものであり、この水を将来にわたって守るためには自然保護が必要です。また、北海道の水資源は海外からも注目を受けており、水源が土地ごと海外資本に買われる事態が発生しています。大雪旭岳源水を東川町の、そして北海道の資源として守るために、コープさっぽろが中心となり、東川町、JA東川などと共同出資して「大雪水資源保全センター」を設立しました。

センターにはボトリング工場を設け、国内はもちろんアジアの人向けにも出荷し、大雪旭岳源水をブランドとしてアピールします。水のおいしさが損なわれないよう、殺菌は加熱方式で



▲温泉水に近いといわれるほどミネラル分が豊富な軟水



はなくUF膜ろ過方式を採用しました。

この工場には、東日本大震災の際に全国にボトル飲料水が不足したことを受け、北海道での重大な災害時に飲料水を確保するライフラインとしての目的もあります。災害にあっても確実に水の提供ができるよう、地震や火災などに強い構造で工場を建設しました。

売上の一部は東川町に寄附し、町が行う自然保護・水資源保全の活動に役立てます。東川町のブランド力を向上させ地域活性化を狙うためにも、天然水という地域資源を生かしながら守っていきます。

※UF膜…0.01μmまでのウイルスなどの物質を除去できる、安全なろ過膜です



工場の性能

生産能力 2ℓ 6,300本/1時間 500ml 50,400本/1時間
※ラインは1本(切替)
生産規模 約1,300万本/年(2ℓ換算)

組合員の希望に沿うお葬式を直営「フリーホール」がオープン

コープさっぽろのお葬式「フリー葬」は、長らく提携社を介した斡旋として運営してきました。しかし、さらに組合員サービスを強化し、満足できる葬儀をお届けしたいという思いから、'12年7月より札幌・石狩・江別・北広島・小樽各市において、直営葬を開始しました。また、11月20日には「フリーホール つきさむ」がオープンしました。これにより、内部厨房で作る安全・安心な温かいお料理、ゆつたりと故人とお別れができる「家族葬」に特化した空間、明瞭価格の7プランでの葬儀が提供できるようになりました。



▲フリーホール つきさむ

成果を見る

フリー 直営葬件数

85件('12年7月~'13年3月)

お買物できる店舗の存続へ道内の企業・協同組合を支援

道内の過疎化が進む市町村では、生活の基盤となる店舗の存続が難しい状況が見られます。コープさっぽろは、移動販売車(P16)などの対策以外にも、店舗の存続をサポートする必要性を感じていました。そこで、従来からいわみざわ店と産直品販売などで交流があったJAみねのぶ(美瑛市)と事業連携し、Aコープ店を改装オープンしました。商品供給や店舗運営でも協力をしています。

また、'10年に資本提携したスーパー魚長(函館市)には、

店舗運営や物流などの支援を続けた結果、2期連続で黒字となりました。今後も店舗の支援により、道内どこでもくらしが守られる地域づくりを進めたいと思います。



▶提携したJAみねのぶ店

Topics [事業活動トピックス]

信頼回復に向けて 一下請法違反勧告へのお詫び

コープさっぽろは、公正取引委員会より'12年6月22日付けで下請代金支払遅延等防止法(下請法)に基づく勧告を受けました。これまで取引先と正当な契約のもと事業を行っていましたが、下請法に対する理解不足のため、組合員の皆さまの信頼を損なう結果となり大変申し訳なく思います。以下、経緯と対応をご報告いたします。

■勧告を受けた違反行為の内容

下請事業者に対し、下請代金から「月次リベート」「年次リベート」として一定の額を減じたことについて。(下請法4条第1項第3号の規定に違反)

■明らかになったこと

コープさっぽろの下請法の理解不足により、一部お取引先さまが下請事業者に該当するとの認識がなく、一般のお取引先様と同様の会計処理を行っていました。

■コープさっぽろの対応

下請事業者に該当するお取引先さまの会計処理方法を改め、減額分について返却を終了しています。勧告を真摯に受け止め、社内教育を徹底し、再発防止を図るとともに、法令遵守に努めてまいります。



コープさっぽろ 2012年度環境報告

コープさっぽろでは08年度に「エコプロジェクト21」をスタートさせて環境の保全・改善に大きな成果を上げました。以降毎年新たなアクションプランを設け、取組を進めてきました。'12年度も18のアクションプラン課題を掲げました。ここでは、その取組の結果をまとめ、ご報告いたします。

環境活動テーマ① 組合員と共に進める環境の取組

アクションプラン	具体的行動目標	結果
コープ未来(あした)の森づくり基金のもと植樹活動を進めます	11,000本植樹を進めます	実績は10,456本でした。
	あすもりサポーターを拡大・育成し組合員さん参加による植樹活動を進めます	サポーターは646名になりました(純増373名)。
	循環型森づくりのための森林資源活用を検討します	下川町視察、ベレット学習会開催などを通して調査研究が進みました。
	森林を育てる団体を支援しネットワークを広げます	高額助成3団体・小額助成12団体へ助成活動を行いました。森づくり交流会を行い9会場に173名が参加しました。
家庭での省エネを促進する取組を進めます	広報を充実させコープ未来の森づくり基金の広がりをアピールします	「モリイク」3・4号の発行、サポーター通信の隔月発行のほか、「食べる・たいせつフェスティバル」への出展やフェイスブックの活用を行いました。
	スマートメーター家庭版の研究を進めます	'13年度に普及キャンペーンを行います。
	電気自動車急速充電器を各地区1台設置します	売電できず設置推進を取りやめました。
取扱い商品にカーボンフットプリントの表示を増やします	家庭での太陽光発電の普及を促進します(目標130件)	131件の設置を行いました。
	47品から100品に増やします	商品表示は36品目実施。商品の改廃があり減少しました。
	商品移動時に対応できるスポッターに切り替えます	ソフとはほぼ完成しました。今後の普及につなげます。
	組合員さんへのカーボンフットプリントの理解を深めます	付け外しできるスポッターに変更しました。店頭でちらし紹介を継続しています。
ご近所やさい、地産地消の取組を拡大します	経済産業省が進める民間移行の取組との連携を強化します	産業管理協会との情報交換と連携が進みました。環境展示会「エコプロダクツ」で紹介していただきました。
	農業賞・ご近所やさい・ぶこつ野菜の供給構成比22%を目指します	農業賞18億円、ご近所やさい11億円、ぶこつ野菜1億円。構成比は20%レベルになりました。
	ご近所やさいの地区別協議会を拡大します	全地区での取り組みにはならず。札幌は'13年に開催を予定しています。
	農業賞受賞者の掘り起こしを行い商品拡大します	ご近所やさい生産者は1,000件を超えさらに拡大の予定です。
地域に根ざした地産地消の食のプログラムの拡大を行います	循環型農業生産商品の取扱いを拡大します	有機野菜が拡大しました。'12年度は1.2億の売上になりました。
	地産地消プログラムを拡大します	「ご近所やさい」生産者との交流を進めました。また、食の学習会を86回、商品の学習会を252回、各地で開催しました。
地域に根ざした地産地消の食のプログラムの拡大を行います	北海道の食材にこだわったレシピ集「新ちよこつと」60万部を配布します	'12年4月より60万部配布を行っています。

環境活動テーマ② 組合員と共に進める環境の取組

アクションプラン	具体的行動目標	結果
脱原発を推進する自然エネルギーへの活用拡大を推進します	バイオガスプラントで自然エネルギーの利活用を推進します	'13年3月より実験稼働が始まりました。
	メガソーラーでクリーンエネルギーの発電を行います	'13年3月より発電を行っています。
	風力・水力発電の検討を進めます	早急な検討は断念しましたが、有効的な自然エネルギーの活用検討は継続いたします。
	脱原発に向けた学習会を開催します	「内部被曝と健康被害」「巨大地震と泊原発」など地区にあったテーマで、専門家を講師とした学習会を全道で8回開催しました。

環境活動テーマ③ 廃棄物の削減とリサイクルによる循環型地域社会形成のための取組

アクションプラン	具体的行動目標	結果
エコセンターへの資源回収量品目の拡大と5%回収量アップを目指します	回収トレイ・発泡から生産したインゴットで再生品の製作を進めます	2社と協議してきましたが、現在1社と店舗備品を製作できないか検討中です。
	プラスチックごみの有価回収、資源化を検討します	検討を継続しています。
	回収量アップの案内強化、事業所指導を行います	回収量の見える化を行いました。事業所指導は次年度へ繰り越します。
	他社のダンボール回収を進めます	新たに2社からの回収を始めました。
新規回収リサイクルの検討を進めます	ペットボトルについて回収実験と自前回収の検討を行います	10店舗での粉碎機設置実験を行っています。
	アルミ缶のインセンティブ回収の実験を行います	現場での回収方法について検討中です。
	インクカートリッジリサイクルシステムの回収をスタートします	店舗でのインクカートリッジ使用が激減したため断念しました。
BDFの拡大、宅配BDF車両の拡大を行います	冬期間の運用拡大を目指します	冬期間の運用拡大は進みませんでした。
	帯広地区によるB5燃料の実験を行います	農家さんのハウスに活用する取組を始めました。次年度実験結果をまとめます。
	全地区で360台のBDF車を目指します	稼働台数は前年と変わりませんでした。
	BDFによるカーボンオフセットを目指します	BDFのオフセットが認証されました。制度は'13年から新しい制度に変わります。活用方法を検討します。
店舗で発生する食品残渣(生ごみ)を使ったリサイクルループを実現させます	函館地区・七飯町にバイオガスプラントを建設します	建設が終了し、'13年3月より実験稼働を始めました。函館市の店舗から発生する野菜くず、惣菜、パンくずなどを回収して実験を行っています。
	店舗から発生する食品残渣を活用したリサイクルループの実験の検討を進めます	
木質ベレット活用での地産地消型社会の実現を目指します	ベレットストーブの販売拡大とベレット燃料の販売を進めます	ルーシー店にベレットボイラーを導入し暖房やプールの温水に活用しています。
	木質ベレットプロジェクト開催で普及拡大を目指します	プロジェクトは中止いたしました。
新容器リサイクル法に対応し容器包装の大幅削減を進めます	容器リサイクル法改正の対応を図ります	前年対比84.5%に負担が減っています。
	容器簡素化連絡会の連携で普及活動を進めます	前年に引き続き北海道庁、札幌市役所でのロビー展示を行いました。
	商品部との連携でのトレイ重量削減の取組を進めます	前年より8.1%削減になりました。
	生鮮センター畜産、水産部門で、真空包装機を活用します	活用を行っています。
店舗における小型真空包装機の導入実験を進めます	ノートレーの拡大が進んだ段階で導入することにしました。	

環境活動テーマ③ 事業分野での改善活動による環境負荷削減の取組

アクションプラン	具体的行動目標	結果
ISO14001返上に伴う独自環境マネージメントの確立を行います	年1度の内部環境監査を行います	監査室と共同で点検を進めています。
	各事業所でのエコ委員会を確立します	立ち上げがされましたが、継続性の課題を残しました。もう一度構築をはかります。
	コープナビ活用で環境に関する取組の学習会を増やします	環境の学習の場として機関紙を通じてダンボール回収BOXやペットボトル回収機の案内を行いました。
環境配慮全商品の取扱いをさらに強めていきます	「黄金そだち」シリーズ商品のアイテム・販売量拡大を進めます	知床鶏、別海アイスの開発と販売が進み年間7.5億円(140%伸張)になりました。
	北海道産米を使った米粉商品の開発拡大を進めます	予定していた精米工場稼働が延期になり開発を見合わせています。
	環境に配慮したフェアトレード商品の学習会を行います	進みませんでした。
	容器包装簡素化商品の取扱いを進めます	日本生協連商品の拡大がありました。店頭ではポスターでの案内を行いました。
	水産部門におけるMSC認証商品の拡大を目指します	原料状況が良くなく拡大できませんでした。
	北海道産商品の比率を持続的に向上させます	新PB商品のコンセプトに盛り込み持続的な向上を目指しています。
電気使用量のさらなる削減(既存店比5%削減目標)のために、それにかかる費用対効果を検討しつつ実施します	スマートメーターの自動制御システムの完成と他店拡大を進めます	岩見沢、江別の実験を経て12店舗に導入し、自動制御システムの構築を目指しています。
	LED電球拡大を店舗・宅配事業所で進めます(新店は100%)	対象店へのグロサリーケースのオーバーキャノピー化、スポット照明のLED化を終了しました。
	見えタローはスマートメーター導入以降随時契約をやめていきます	スマートメーターを活用した自動制御システムが完成後順次取りやめます。
エコ店舗を進化させCO ₂ 排出のさらなる削減を目指します	木造建築2号店をいしかわ店で実現させます	'12年11月にオープンしました。
	バイオガスコージェネレーションシステムを導入します	バイオガスの供給はプラントの実験終了後になります。
	二酸化炭素冷媒ショーケースを導入します	新店を中心に導入しています。いしかわ店に導入しました。
物流の効率化によるコスト削減と環境負荷軽減を進めます	物流機能再編効果による、コスト削減と環境負荷削減を図ります	生鮮便見直しで5台減車しました。宅配農産品・酒バラ品の江別物流集約を行いました。
	省エネ事業、冷蔵保冷車ダイナミックアイス、アイドリングストップなどにより二酸化炭素排出量の削減をさらに強化します	夏季7%削減しました。生鮮便の削減で二酸化炭素排出量は10%削減になりました。その他、資源回収の自前化を行いました。
紙の使用量をさらに10%削減します	コピーでの製本機能を拡大し枚数削減します	使用枚数は前年114%に増えました。担当者ニュースが普及した影響もありますが、営業貢献につながっていると理解できます。
	N-up印刷を拡大させます	N-up比率は0.5%から0.7%へ増えました。

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろは、組合員139万人を擁する全道に広がる組織です。その組織率からしても地域社会の期待は非常に高いものがあります。今後よりいっそう経営の健全性を高めるとともに、地域に広がる組合員活動の充実に努め、北海道の元気につながる「社会的役割」を発揮するコープさっぽろを目指します。

コープさっぽろの基本姿勢

組合員への「7つのお約束」と社会的責任

- お約束 1** ▶ つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かな暮らし」をお約束します。
- お約束 2** ▶ いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。
- お約束 3** ▶ 組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することのお手伝いをお約束します。
- お約束 4** ▶ 誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。
- お約束 5** ▶ 道内の生協と連携し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。
- お約束 6** ▶ 地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。
- お約束 7** ▶ 平和で、人間らしい「豊かな暮らし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

コープさっぽろの環境理念と環境方針

環境理念

コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、組合員、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かな暮らし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じ組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かな暮らしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

- ②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。
- ③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。
- ④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

基本情報

名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立	1965年(昭和40年) 7月18日 創立総会 10月1日 創業開始
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常勤)	●理事長 大見 英明 ●専務理事 山口 敏文 ●常務理事 福田 信 ●常務理事 中島 則裕 (2013年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)
組合員数	1,415,265名(2013年3月20日) (北海道の世帯数2,685,761世帯)(2012年3月31日) 組合員組織率52.7% (札幌市46.3%、旭川市63.1%、函館市59.7%、石狩市72.3%など)
出資金	620億1519万円(2013年3月20日現在)
事業高	2,547億1,100万円(2012年3月21日~2013年3月20日) 1,751億9,000万円(店舗事業) 742億9,300万円(宅配事業) 15億1,200万円(共済事業) 37億1,600万円(その他)
従業者数	正規職員 1,319名 契約社員 1,278名 パート・アルバイト 10,172名 (2013年3月20日現在)

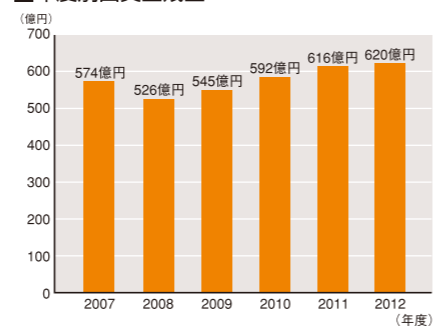
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

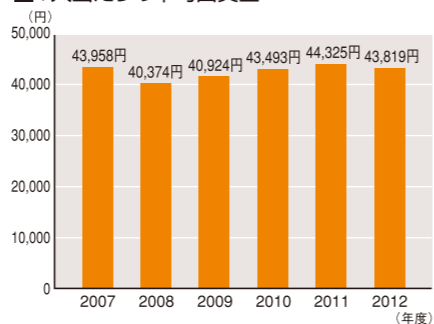
項目 年度	金額 (千円)	前年比増加額 (千円)	増加率(%)	
			対前 年比	2007年度 基準
2007	57,351,914	▲1,253,670	98	100
2008	52,641,212	▲4,710,702	92	92
2009	54,504,525	1,863,313	104	95
2010	59,244,286	4,739,761	109	103
2011	61,680,589	2,436,303	104	108
2012	62,015,189	334,600	101	108

※2007年度、コープ十勝から15.6億円の出資金を引き継ぎました。
※2008年度4月の定款変更で1組合員の有することができる出資
口数の限度が五千口(500万円)となり、出資金の減少となりました。

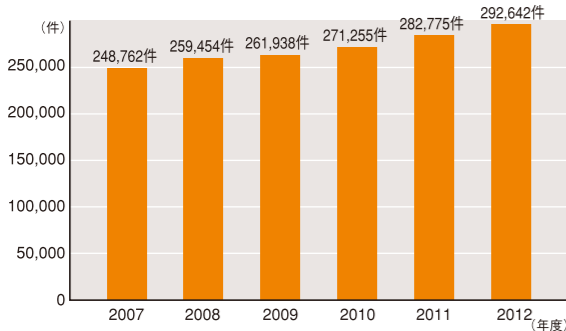
■年度別出資金残金



■1人当たりの平均出資金

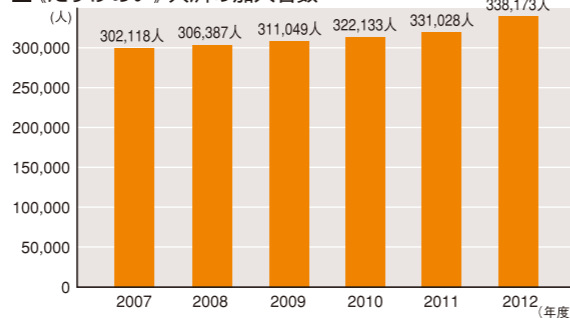


資料 宅配(トドック)の参加情報



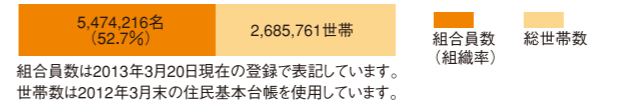
資料 CO・OP共済の状況

■《たすけあい》共済の加入者数



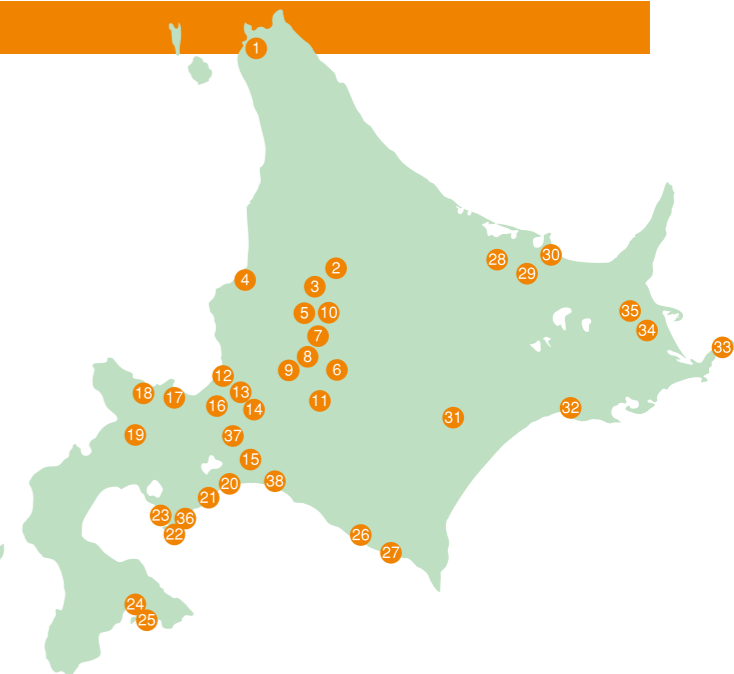
組合員動態

都市別組合員組織率



組合員数は2013年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は2012年3月末の住民基本台帳を使用しています。

順位	市町村	組合員数 (人)	組織率 (%)	総世帯数 (世帯)
1	稚内市	4,140名	22.1%	18,734世帯
2	旭川市	109,763名	63.1%	173,984世帯
3	深川市	8,188名	72.8%	11,241世帯
4	留萌市	9,949名	82.2%	12,106世帯
5	滝川市	11,719名	55.1%	21,269世帯
6	富良野市	9,010名	82.7%	10,901世帯
7	砂川市	6,630名	72.7%	9,125世帯
8	美瑛市	11,118名	90.0%	12,358世帯
9	岩見沢市	29,441名	69.5%	42,374世帯
10	赤平市	5,140名	77.9%	6,596世帯
11	夕張市	4,647名	80.3%	5,789世帯
12	石狩市	19,223名	72.3%	26,604世帯
13	江別市	31,001名	57.5%	53,878世帯
14	北広島市	20,123名	76.9%	26,152世帯
15	千歳市	17,418名	39.0%	44,701世帯
16	札幌市	453,192名	46.3%	979,158世帯
17	小樽市	43,064名	64.4%	66,854世帯
18	余市町	7,218名	70.9%	10,174世帯
19	倶知安町	6,461名	87.3%	7,403世帯
20	苫小牧市	52,027名	61.9%	83,984世帯
21	白老町	7,299名	75.6%	9,653世帯
22	室蘭市	14,898名	31.3%	47,589世帯
23	伊達市	5,663名	31.8%	17,788世帯
24	北斗市	11,695名	54.6%	21,439世帯
25	函館市	85,125名	59.7%	142,543世帯
26	新ひだか町	6,949名	57.0%	12,190世帯
27	浦河町	6,565名	94.7%	6,932世帯
28	遠軽町	9,338名	87.4%	10,689世帯
29	北見市	32,482名	53.6%	60,564世帯
30	網走市	12,091名	65.9%	18,349世帯
31	帯広市	36,137名	43.9%	82,304世帯
32	釧路市	51,320名	54.8%	93,636世帯
33	根室市	5,643名	43.7%	12,913世帯
34	別海町	3,487名	55.6%	6,266世帯
35	中標津町	4,612名	42.8%	10,771世帯
36	登別市	10,441名	42.0%	24,862世帯
37	恵庭市	12,364名	40.4%	30,573世帯
38	むかわ町	3,521名	79.6%	4,422世帯
	表記以外の市町村合計	267,136名	51.9%	514,539世帯

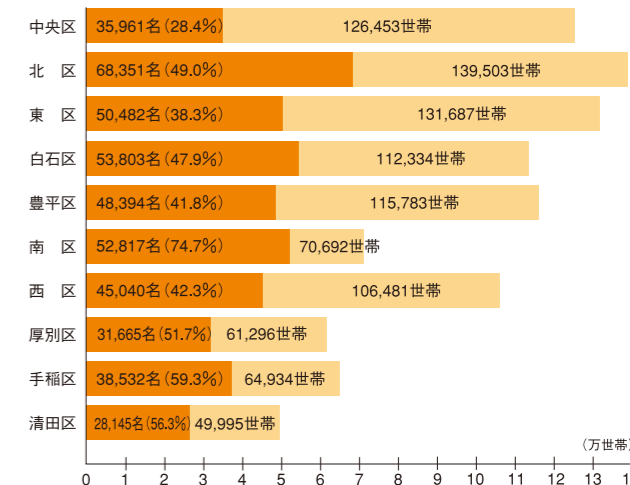


■年度別組合員動態

項目 年度	組合員数 (人)	前年比増加数 (人)	増加率(%)	
			対前 年比	2007年度 基準
2007	1,304,696	76,086	106	100
2008	1,303,846	▲850	99.9	99.9
2009	1,331,835	27,989	102	102
2010	1,362,134	30,299	102	104
2011	1,391,552	29,418	102	107
2012	1,415,265	23,713	102	109

※2007年3月21日コープ十勝から55,804名を引き継ぎました。
※2009年3月20日、住所不明・未利用者33,182名を法定脱退処理しました。
※2010年3月20日、住所不明・未利用者5,853名を法定脱退処理しました。
※2012年3月20日、住所不明・未利用者997名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率



事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8(帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌)

店舗

107店舗(2013年3月20日現在) 28市17町

札幌市	25店舗	富良野市	1店舗	根室市	1店舗
江別市	2店舗	留萌市	1店舗	釧路町	1店舗
北広島市	2店舗	函館市	9店舗	白糠町	1店舗
石狩市	1店舗	北斗市	1店舗	中標津町	1店舗
千歳市	2店舗	苫小牧市	5店舗	北見市	3店舗
小樽市	3店舗	伊達市	1店舗	網走市	1店舗
余市町	1店舗	木古内町	1店舗	遠軽町	2店舗
倶知安町	1店舗	幕別町	1店舗	美幌町	1店舗
岩見沢市	2店舗	むかわ町	1店舗	帯広市	2店舗
美幌市	1店舗	白老町	1店舗	室蘭市	2店舗
夕張市	1店舗	新ひだか町	1店舗	赤平市	1店舗
旭川市	8店舗	浦河町	2店舗	別海町	1店舗
深川市	1店舗	えりも町	1店舗	登別市	3店舗
砂川市	1店舗	様似町	1店舗	恵庭市	1店舗
滝川市	1店舗	釧路市	6店舗	福島町	1店舗

コープ宅配システムドックセンター

25センター+5デポ(2013年3月20日現在)

生産工場

江別生鮮加工センター
石狩食品工場
配食白石工場

子会社

コープフーズ株式会社
シーズ協同不動産株式会社
コープ協同不動産株式会社
シーズ協同開発株式会社
コープ協同開発株式会社
株式会社シーズ能力開発センター
株式会社エネコープ
コープ協同保険株式会社
北海道はまなす食品株式会社
デュアルカナム株式会社
有限会社コープ協同サービス
有限会社ドリームファクトリー
株式会社道環
株式会社大雪水資源保全センター
北海道ロジサービス株式会社

リサイクル施設

エコセンター

'12年度の新店

'12年11月	いしかわ店(函館市)
---------	------------



▲ECO-OPいしかわ店(函館市)

沿革

1965	7月18日創立総会 10月1日創業開始 名称:札幌市民生活協同組合 店舗数2 組合員数1,000人 初年度事業高2億5,600万円
1969	小樽市民生協と統合
1970	旭川市民生協と統合
1973	商品検査室設置
1975	北海道知事より優良組合の表彰を受ける
1977	CO-OP共済(火災、生命)扱いスタート
1978	中央市民生協、函館市民生協と統合
1979	真駒内団地生協と統合
1981	協同購入事業月例配達 店舗遠隔地でスタート
1990	生活協同組合市民生協コープさっぽろへ名称変更
1995	創立30周年 店舗数116 組合員数782千人 事業高1,756億円
1997	「おいしいお店」バージョン店舗改装スタート 協同購入事業での戸配事業スタート
2000	生活協同組合コープさっぽろへ名称変更 全国の生協とともに進めた「食品衛生法改正を求める国会請願」の署名にコープさっぽろ34万筆を提出 店舗数87 組合員数884千人 事業高1,461億円
2002	道央市民生協との事業提携 「生鮮食品表示自主基準」運用 店舗数65 協同購入支部数22 組合員数899千人 事業高1,502億円
2003	釧路市民生協との統合、宗谷市民生協との事業提携 第19回読売広告大賞「読者が選ぶ広告の部」で読者賞を受賞 全国初、消費者が生産者における「コープさっぽろ農業賞」スタート 北海道の「食の安全・安心条例」制定に向けて要望書提出
2004	第57回広告電通賞「北海道地区優秀作品賞」受賞 「加工食品の原料原産地表示自主基準」運用
2005	宗谷市民生協との統合、コープ十勝・コープどうととの事業提携
2006	道央市民生協・コープどうととの統合 根室支店に2店舗初出店 協同購入・戸配事業の名称をコープ宅配システムドックへ名称変更 店舗数96 コープ宅配システムドックセンター数32センター 組合員数1,229千人 事業高2,160億円
2007	コープ十勝との統合 店舗数95 コープ宅配システムドックセンター数26センター、5デポ 組合員数1,304千人 事業高2,320億円
2008	コープさっぽろ寄附講座開催(北海学園大学経済学部/酪農学園大学酪農学部 食品流通学科) レジ袋有料化スタート エコセンター始動

2009	志賀総合食料品店、別海農協、(有)魚長との提携 旭友ストアからの事業継承 札幌市円山動物園と提携、ホッキョクグマ応援プロジェクト開始 BDFドック車両稼働、240台に増加 社会福祉基金が公益財団法人認可
2010	カーボンフットプリント表示商品スタート 一時保育ドックルームスタート(ルーシー店) えほんがトドックスタート おびひろ動物園と協定 移動販売車スタート BDF使用トラックギネス登録パレード ECO-OP西宮の沢店オープン
2011	「黄金そだち」シリーズの卵、別海牛乳、美瑛豚販売スタート 札幌市と安否確認協定締結 東日本大震災救援物資、支援スタート ぐらしの広場スタート 配食サービススタート スマートメーター実験スタート フィンランド生協連合会役員来札 札幌市とまちづくりパートナーシップ協定締結 釧路市動物園と協定
2012	全労済、北海道医療生協、ほくろう福祉協会と事業提携 ちょこっとリニューアル 別海乳業興社事業提携 JAみねのぶ店舗オープン 事業所内託児所オープン 畑でレストラン開催 道内52市町村と見守り協定締結 フリエ 家族葬スタート PB商品発売開始 クッキングスタジオスタート
2013	大雪水資源保全センター事業開始 北海道と包括協定締結 配食サービスで産後食スタート バイオガスプラント・メガソーラー稼働



開業第1号店の大学村店(札幌市)



「おいしいお店」第1号店の新道店(札幌市)